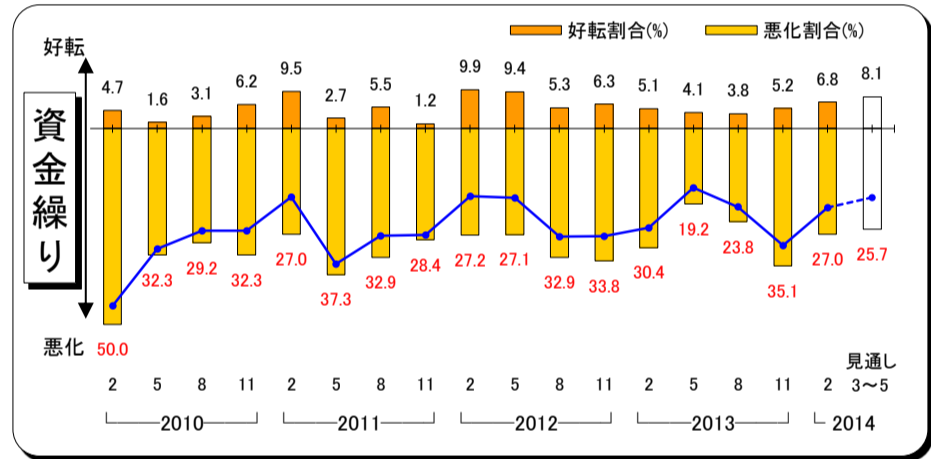
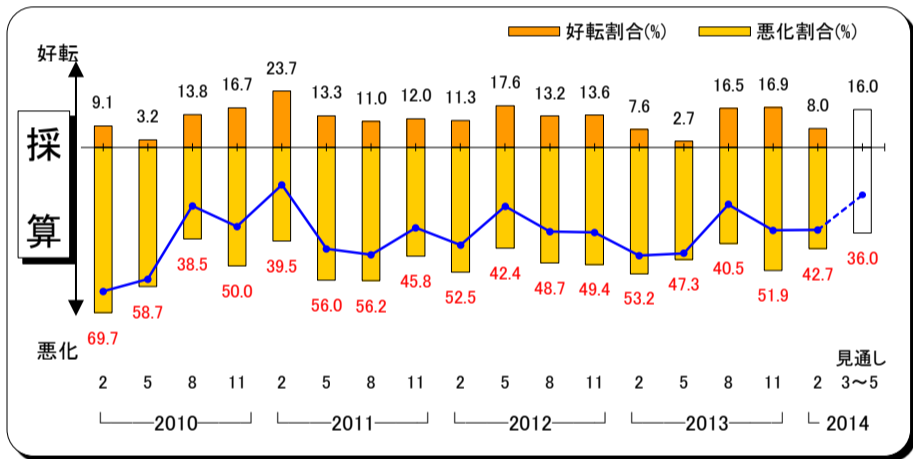
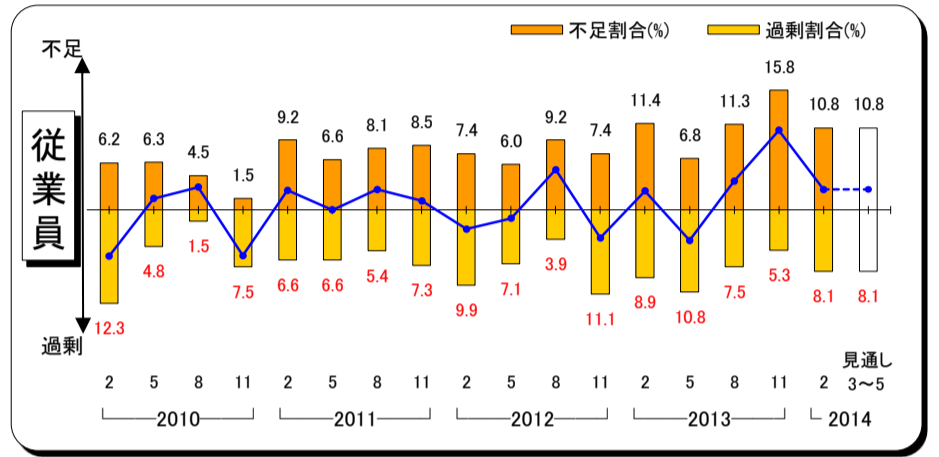
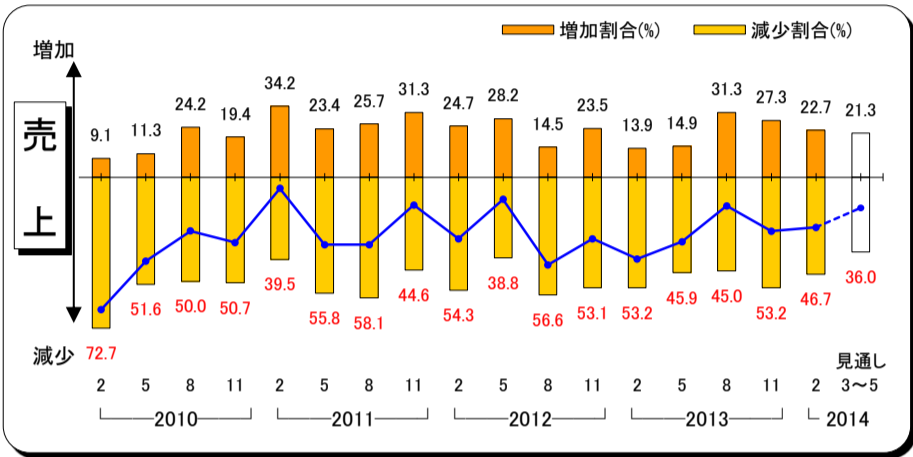
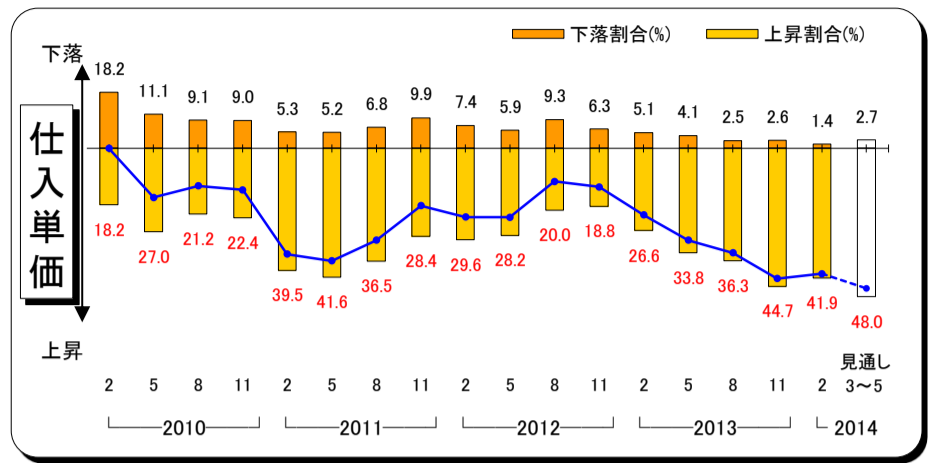
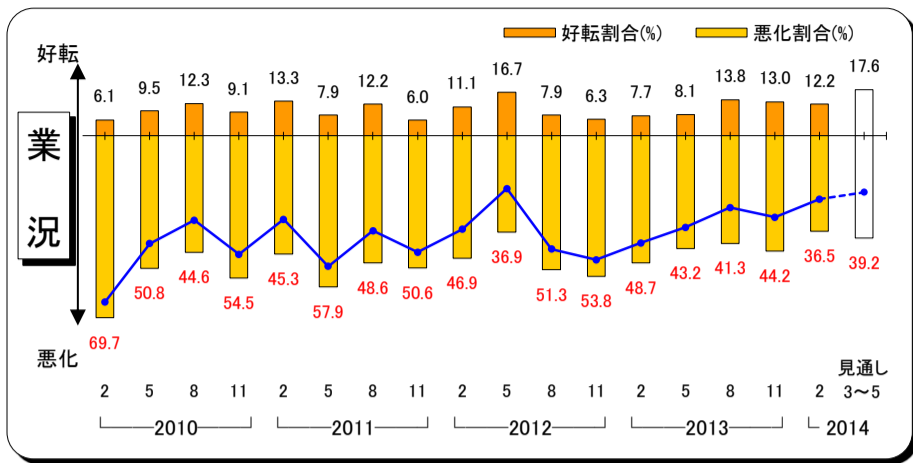


# 【小売業】①



## 【小売業】②

### 企業の声（順不同）

男子服小売業	冬物バーゲンも終盤になり、追い込みに期待していましたが、昨年と比べて大幅な売上の落ち込みに加え、大雪の影響で大変厳しい状態です。世間で話題になっている「景気が良くなっている」という実感はなく、今年に入ってから周囲からも、特に景気の悪い話を耳にします。
各種食料品小売業	消費税増税前に食材の価格がどんどん上がっている。中には、半年で2回価格が上がったものもある。商品価格に転嫁できない状況なので、対策に苦慮している。
食肉小売業	利益が出ない中でのベースアップを求められ、雇用・賃金の問題に難儀している。また、仕入価格の上昇により製造原価がアップしているのに、売値を上げられない。
食肉小売業	円安に伴う仕入原料の値上げで営業利益の減少が続く中での消費税増税が4月に待っています。最近、小売業では消費税額表示を外税で行う商店が多いとの事なので、外税表示は消費税転嫁対策による時限措置でなく、そのまま永続的に適用されるように運動してください。
菓子製造小売業	個人消費および観光客の動向に注目している。
パン小売業	従業員不足を補うために求人募集をするも、ほとんど応募なし。時給を上げるも応募なし。従って、製造が出来なくなり、今後は売上も利益も減少して行くことになりそうである。
米穀類小売業	千葉県の小売業や千葉食料販売事業協同組合等で、山形県、新潟県の産地組合等からお米を協同購入して、食味ランキング特Aクラスの品揃えしておりますが・・・、お客様はお米を研いで炊く作業や手間が嫌な時代になったのでしょうか。
自動車部分品・附属品小売業	消費税増税前の駆け込み需要が若干増加傾向にあるが、4月以降の動向が不透明である。設備投資については、先延ばしにしていた改修等を優先的に実施する予定。
二輪自動車小売業	二輪車小売業界では新車販売台数が減少し、10年前は100～150万台であった販売台数が2009年には40万台を割り込み、販売店の廃業が相次いでいます。自動車税増税、駐車場不足、駐車違反取締強化（7年間で罰金200億円）等が原因です。このような時に取引先のメーカーからは、現在の保証人設定を廃止し、2014年4月1日から定期預金質権設定か根抵当権（1番抵当）設定の申し入れがあり、当然ながら弊社も困惑しています。要因として同社直営店（全国に200店舗、千葉県内は数店舗営業）の育成強化優先が考えられます。廃業者の続出で同社の国内方針が明確になるでしょう。当然これに続いてくる他のメーカーの動向も重要視しなければなりません。
電気機械器具小売業	個人消費の動向や受注単価、販売価格の動向を注視しています。
電気機械器具小売業	消費税率引き上げによる駆け込み需要が頼み。1月、2月は大変厳しかった。
医薬品小売業	薬価の切り下げ、消費税増税による経営悪化は必至。切り詰めてやっていく他はない。
調剤薬局	調剤報酬改定でかなり厳しくなる。
紙・文房具小売業	有能な人材が不足している。
紙・文房具小売業	先行きの売上見通しに関しては、3月期に消費税率引き上げ前の駆け込み需要が多少あると思いますが、4月以降はその反動で落ち込むのではないかと思います。
スポーツ用品小売業	天候不順および個人消費の落ち込みにより更なる安売り合戦となっています。今の状況で4月から消費税率が上がる事を考えるとゾッとします。政府には消費の下支えをしっかりとっていただきたいです。
がん具・娯楽用品小売業	法人税減税の実行を望む。
時計・眼鏡・光学機械小売業	老人の医療費と公共事業を大幅に削減して今さえしのげればよいという予算編成を見直すべきです。若い世代（50歳以下）に負の財産を背負わせ、負担を強いるのはもうやめるべきです。今のままでは国債の暴落もそう遠くない日に来ると思います。
ジュエリー製品小売業	業況については大きな変化なかったものの、降雪によるダメージは多少ありました。正社員の給与については、昨年10月に昇給を実施いたしました。
工業薬品・理化学機器等小売業	4月からの消費税増税に伴う景気の下振れはあると思いますが、政府が5.5兆円規模の経済対策を行う事により、秋頃からは景気が持ち直し、上昇することを期待しています。ただし、更に国の借金が増加することを懸念しています。